

2009.1.23

独) 産業技術総合研究所

環境管理技術研究部門長

原田 晃

総合科学技術会議 知的財産戦略専門調査会 意見書

「環境技術」分野における知財戦略をどう考えるか？

➤ 環境技術の特性

- ・ 地球規模の環境問題は、人類が持続的に生活していくために解決しなければいけない問題。広範かつ複雑多岐である上、各国の利害の不一致などをはらむことから、人類に課せられた最重要かつ至難の課題。
- ・ 環境問題に対する関心が高い社会では、企業の「環境への投資」が「競争力の強化」に繋がる。
- ・ 環境負荷物質のローカルな発生が、グローバルにインパクトを与える。
- ・ 環境問題に対する関心がまだ高くない社会に対する貢献が重要。
 - 知財の国際展開が重要
- ・ 「環境技術」は、各国の規制等環境行政に密着している。
 - 「知財戦略」と「標準化戦略」との関係も重要

➤ 日本の「環境技術」の知財

- ・ 特許の出願は、諸外国に比べて多い。
- ・ 外国への特許出願は極めて少ない。
 - 国内出願だけであると外国でその技術を自由に使われてしまう危険性
- ・ 外国企業からの独占実施や譲渡希望の問題（研究機関において）

➤ 国際標準に対する問題

- ・ 「環境配慮」に関しての国際標準化が進んでいる。「JISのISO化」をより進めていくべき。
- ・ 環境問題への関心が高くない国では、「規制」の法整備は進められているが、実態が伴っていない現状。環境保全制度、管理方法、環境技術の移転・普及が重要。
- ・ 不正な技術流出、模倣品の横行を未然に防ぐ対策も重要。